

平成30年度 いわき地域医療セミナー

- 【第1回】平成30年7月25日(水)～27日(金)
- 【第2回】平成30年8月 8日(水)～10日(金)
- 【第3回】平成30年8月29日(水)～31日(金)
- 【第4回】平成30年9月25日(火)～27日(金)

いわき市 地域医療課

平成30年度スケジュール

日程	AM PM	第1～3回		第4回	
		研修先	主な内容	研修先	主な内容
1日目	AM	福島県立医科大学 ⇒ いわき市へ		福島県立医科大学 ⇒ いわき市へ	
		【第1回】 福島労災病院 【第2・3回】 総合磐城共立病院	○オリエンテーション	福島労災病院	○オリエンテーション
	○開講式		○開講式		
PM	○院長講話	○院長講話			
		○昼食(医療従事者との交流)	○昼食(医療従事者との交流)		
		○医療ソーシャルワーカー講話	○医療ソーシャルワーカー講話		
		○緩和ケア病棟見学	○緩和ケア病棟見学		
		○CT・MRI見学	○CT・MRI見学		
		○中央検査室見学	○中央検査室見学		
		○手術室見学	○手術室見学		
		○血圧測定事前練習	○血圧測定事前練習		
	夜	宿泊先 (小名浜オーシャンホテル)	○学生間交流会(BBQ)	宿泊先 (小名浜オーシャンホテル)	○学生間交流会(BBQ)
2日目	AM	有料老人ホーム 「感謝の郷」	○オリエンテーション	呉羽総合病院	○院長講話 ○地域連携室の役割 ○病院内見学
		利用者宅	○訪問診療医講話		
		○訪問診療同行			
		○施設見学			
		○訪問看護同行			
	有料老人ホーム 「感謝の郷」	○昼食(医療従事者との交流)	○昼食(医療従事者との交流)		
PM	【第1・3回】 福島整肢療護園 【第2回】 いわき病院	○院長講話	市内公民館	○地域住民との交流 (健康相談と血圧測定)	
		○病棟見学			
		○リハビリテーション見学			
	夜	宿泊先 (小名浜オーシャンホテル)	○学生間ディスカッション	宿泊先 (小名浜オーシャンホテル)	○学生間ディスカッション
			○多職種情報交換会		○多職種情報交換会
3日目	AM	市内公民館	○地域住民との交流 (健康相談と血圧測定)	有料老人ホーム 「感謝の郷」	○オリエンテーション
				利用者宅	○訪問診療医講話
			○訪問診療同行		
			○施設見学		○施設見学
			○訪問看護同行		○訪問看護同行
			○訪問看護や在宅医療の講話		○訪問看護や在宅医療の講話
		いわきら・ら・ミュウ	○昼食	有料老人ホーム 「感謝の郷」	○昼食(医療従事者との交流)
PM	いわきら・ら・ミュウ 等	○まとめと発表	総合保健福祉センター	○まとめと発表	
		○閉講式		○閉講式	

【第1日目】

いわき市立総合磐城共立病院・福島労災病院



○院長講話

- ・地域の三次救急を担う病院の実情を客観的な数値と院長先生の話を通して学ぶことができた。
- ・いわきの医療の問題点や専門医制度について聞くことができた。



○昼食【医療従事者との交流】

- ・指導医の先生から、研修病院の選び方や外科医の適正などの貴重な話が聞けた。
- ・研修医の視点からの話が聞け、数年後の自分をイメージできた。



○病院見学

- ・普段の医療現場を見ることができ、貴重な体験だった。
- ・授業でならった検査の一つ一つがしっかりと病院で検査されていることに感動した。
- ・緩和ケア病棟では患者や家族に寄り添っていることが印象に残った。
- ・医療ソーシャルワーカーの役割や仕事について知ることができた。



【第2・3日目】

有料老人ホーム「感謝の郷」・各利用者宅



○訪問診療同行

- ・実際に患者の情報を持って、話を聴くという貴重な体験ができた。
- ・今後について家族との話合いに同席でき、ACPについて医師がどのように対応しているか、普段関われない場だったので貴重な体験だった。
- ・訪問看護師が一人一人の情報を共有していること、実際の業務を見させてもらい、肌で感じれたことは、とても勉強になった。
- ・自分のコミュニケーション力がわかった。

○昼食【医療従事者との交流】

訪問診療や看護などが、なぜ必要かなど根本からの話を聞け、これまで考えたことがなかったので印象に残った。

・訪問診療医の「地域医療に限らず、医師は自分の患者の退院後のことまでしっかりと考えて決断をすることが大切」という言葉が印象に残っている

・医者からの視点からは「救命」や「治す」ことを考えがちだが、看取りまで見据えた医療が必要だと感じた。



【第2・3日目】 いわき病院・福島整肢療護園



○障がい児（者）への医療見学

- ・急性期医療だけが医療ではなく、慢性期などの支える医療もあることがわかった。
- ・様々な患者、一人一人にあった治療やリハビリをすることは、たくさんの関係者の連携や協力があったことだということを経験した。
- ・神経難病の方は話せなくても、私たちがコミュニケーションをとってくれ、笑顔がとても印象的だった。
- ・「神経内科では「暗い」訳ではなく、希望を持って患者が望むように心がけている」という医師の言葉が印象に残った。
- ・HALという最新のリハビリ機器について話をきけ、間近でみることもできた。

【第2日目】 学生間ディスカッション・多職種情報交換会



○学生間ディスカッション

- ・同じテーマでも人により見る角度が違うので面白かった。また質問されることで気づくことも多くあった。
- ・正直、直ぐに解決策がでない課題であったが、多方面からの考えを繋げていくことで改善できることもあると感じた。



○多職種情報交換会【夕食時】

- ・様々な職種の方の意見を同時にきけるタイミングは中々ないと思うのでとても貴重な体験だった
- ・各職種の方から事例について、考え方を聞くことができ、より職種の仕事について理解・イメージできた。
- ・事例に対して様々な職種の方が、違う角度やアプローチで支えていることに気が付くことができた。

▶ 事例

○ いわき さとこさん(72歳)が、脳梗塞で救急搬送され、右半身に麻痺が残る。リハビリが終わり、自宅へ退院予定(本人と夫の希望)。既往に糖尿病があり、自己血糖測定とインシュリン自己注射が必要。



【第2・3日目】 地域住民との交流、まとめ・発表



○地域住民との交流

- ・医療を受ける側の方から生の声を聞くことができ、今後医師になるうえでの参考となった。
- ・知らない方の血圧測定は初めてだったので良い体験だった。年齢などを考慮して行動する大切さを感じた。
- ・来てくれた住民の方がとてもやさしく、期待に応えたるためにも勉強をしなければならなくてはと思った。



○まとめ・発表

- ・全員が同じことを考えたポイントもあれば、同じ経験をしていても考え方が異なっていたりと、自分にはない考えが印象的だった。
- ・自分で振り返り、スライドを作成し発表することで、ただ実習をした以上の経験ができた。